

名刀辰房丸〔尾道市〕

大鍛冶屋助右衛門の話に

其阿彌鍛冶屋の先祖に辰房という人がいました。

あるところに心やさしい大工がいました。

住所は定まりませんが元は村から出て来た人で、

辰房とことのほか親密にしていましたので、

りっぱな刀を打っていただきたいと辰房に頼みました。

快諾されあせらず一、二年も待っている内、

大工が住んでいた村の親類の元へ帰るので、

頼んでいた刀を辰房に催促に行けば、

念入りに作るようにしていたのがようやく打ち上がったので、

帰るのに合わせて渡されました。

その大工が村より帰る時にことのほか体の調子が悪くなり、

とある池のほとりに打ち伏し眠っている時、

池中より大蛇が出て大工に向かって来ました。

すると、大工の差している罫のない短刀が自然と抜け出て

大蛇を追い払いました。

大蛇が退けば刀も納まり、二、三度このようなことが起きました。

通りかかりその様子を見ていた飛脚が大工を起こし、

大工の刀を飛脚の旅刀と換えてくれと言いました。

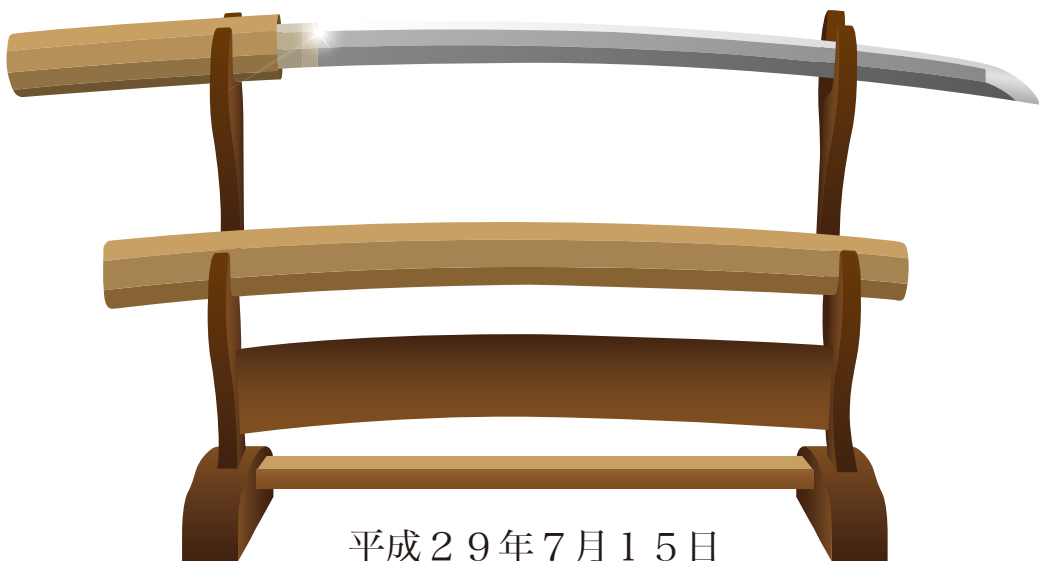
大工が言うには、この刀は大切な刀なので換えることは出来ないとい

伝えました。

それならばと飛脚があつた様子を語り、

大工に刀を随分大切にするように伝えました。

飛脚が見た様子が自然と伝わり、御上より辰房丸と銘を下されました。



平成29年7月15日
(2017年)